

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 パラリンピックを目指すアスリート科学サポート 事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 障がい者スポーツ係

電話番号：058-272-1111 (内 2944)

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,952 千円 (前年度予算額：13,277 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	13,277	0	0	0	0	0	0	0	13,277
要求額	12,952	0	0	0	0	0	0	0	12,952
決定額	12,952	0	0	0	0	0	0	0	12,952

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県スポーツ科学センターに県パラリンピック強化指定選手等の競技力向上のための科学的なサポートを行う専任の研究者・専門員を配置し、選手各々の障がいの程度、箇所等に応じた安全で質の高い科学サポートを提供する。

(2) 事業内容

ア 科学サポートの実施項目

① 体力測定

安全検査、形態計測、筋力測定等を実施する。

② 映像撮影・分析

練習、大会出場時の選手の映像撮影や、実際のフォーム等を分析し、選手へフィードバックする。

③ フィジカルトレーニング

各種トレーニングの実技指導やトレーニングプログラムの提供等を実施する。

④ メンタル・栄養サポート

希望する選手に対し、外部アドバイザーによるメンタルサポート・栄養サポートを実施する。

イ サポート体制の整備

① 障がい者スポーツ医等によるアドバイザー体制

各選手のトレーニング内容等について、定期的なアドバイザー会議を年3回程度実施する。

② 指導能力向上のための研究員・専門員の研修会等への参加

先進的に取り組んでいる国立スポーツ科学センター（JISS）が主催する研修会等に参加する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	12,952	事業費

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふスポーツ推進計画において、東京パラリンピックで10名の県ゆかりの選手輩出を目標に掲げ、選手強化を実施する旨記載している。

(2) 国・他県の状況

- ・国が示す、第2期「スポーツ基本計画（平成29年3月策定）」の中で、スポーツ医・科学サポートについて言及している。
- ・他県等に先駆けた先進的な取り組みである。

(3) 後年度の財政負担

障がい者アスリートの競技力向上のためには、今後も科学サポートを継続していく必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

公益財団法人岐阜県スポーツ協会

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

東京 2020 パラリンピック 10 名の選手輩出等を目標に、強化指定選手への科学サポートを実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
夏季パラリンピック 出場者数	1名 (H12)	1名 (H20)	3名 (H24)	1名 (H28)	10名 (R3)	10%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

県のパラリンピック強化指定選手 13 名に対して、体力測定や映像解析、障がいに応じた専門的なトレーニング指導等の科学的なサポートを実施。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

強化指定選手の中でも、パラリンピックへの出場の可能性が高い選手に絞って科学サポートを実施しており、各サポート選手が自己記録の更新、国際大会での上位入賞、日本代表に選抜されるなどの結果を出し、集中的なサポートによる支援の成果が現れている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	東京 2020 パラリンピックで 10 名の県ゆかりの選手輩出のためには、有力な強化指定選手に対して科学サポートによる強化を実施する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	医科学的な知見に基づいて身体の機能的な動作を分析し、研究員が効果的なトレーニングメニューを作成することで、競技力向上に繋がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	障がい者スポーツ医によるアドバイザー体制の整備や、国立スポーツ科学センター主催の研修会等に参加することにより、トレーニングサポートの安全性の確保と質の向上に取り組んでいる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>現在、県のパラ強化指定選手 14 名が科学サポートを受けており、それぞれが大会で好成績を残しつつある。</p> <p>障がい者アスリートの更なる競技力向上のためには、科学サポートにおける安全性の確保、質の向上を図り、継続してサポートを実施していく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>県スポーツ科学センターを活用した障がい者アスリートの科学サポートは競技力向上に有効であり、今後も継続して支援していく必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	—

